

松江に残る江戸城図

—「江戸始図」と「今江戸図」—



えどはじめず
江戸始図 縦 27.6cm、横 40.0cm 松江歴史館所蔵



いまえどず
今江戸図 縦 27.5cm、横 40.3cm 松江歴史館所蔵

「始」と「今」の江戸城図

松江歴史館が収蔵する「ごくひしょこくしろず極秘諸国城図」は、全国各地の73の城を描いた絵図群です。

「極秘諸国城図」には、大名・旗本屋敷地に記載されている名前や官職から慶長12～14年（1607～09）の江戸城を描いたと比定できる「江戸えど始図」があります。徳川家康が築いた慶長期の江戸城は改修等で失われ、今はその姿をほとんど見ることはできませんが、「江戸始図」の彩色による描き分けや細かい描写によって、家康の江戸城の天守や門、石垣の配置が詳しく分かりました。

なお、「極秘諸国城図」にはもう1枚、「いまえどず今江戸図」という江戸城図があります。「江戸始図」と同じ構図を描く「今江戸図」には大名・旗本名などの文字表記はありませんが、描かれている区画配置から明暦3年（1657）の大火後の江戸城図だと考えられています。

「江戸始図」と「今江戸図」、同一絵図群に収められたこの2枚の江戸城図によって、江戸時代初期からおおよそ50年後の江戸城縄張りの変化や城下町区域の変遷を知ることができます。

<参考文献>

千田嘉博・森岡知範 2017『江戸始図でわかった「江戸城」の真実』宝島新書
松江城歴史的価値発信事業実行委員会・千代田区 2017『共同企画特別展図録 松江城と江戸城－国宝になった城と天下人の城－』
松江歴史館 2018『松江歴史館蔵 極秘諸国城図 図版集』

北の丸の変遷

「江戸始図」では重臣の屋敷地となっているが、「今江戸図」では明暦3年（1657）の大火以降に造られる北の丸植溜と馬場の敷地が見られる。



植溜と馬場の敷地

千鳥ヶ淵の谷の延長が西へ延びていることから
「新板江戸大絵図」(寛文10年・1670)以前

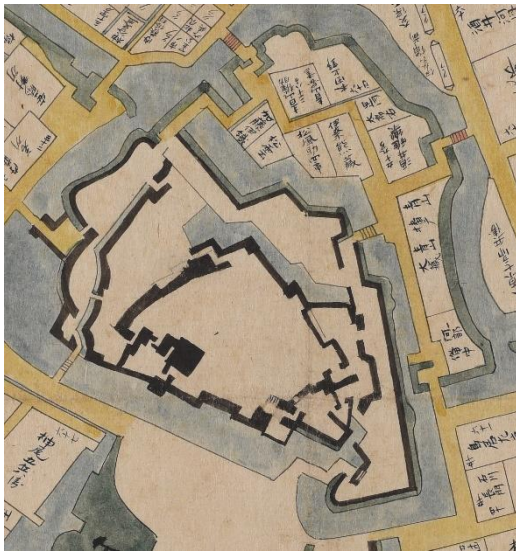
本丸の変遷

「江戸始図」では本丸内に大天守と小天守を組み合わせた連立式天守を設け、天守曲輪を構成する軍事要塞としての城の姿を見せる。

「今江戸図」では天守曲輪を廃し、天守を本丸西端に移して、広大な本丸御殿の面積を確保する意図が読み取れる。

平和な世が到来して、江戸城は戦う城から御殿機能を強化した城に姿を変えたことがわかる。

江戸始図



今江戸図

